

令和3年度「知事とみんなの愛顔（えがお）でトーク」知事挨拶

開催日時：3.11.10(水)

開催場所：県庁正庁

御荘文化センター(web会議)

皆さんこんにちは。私の周りは誰もいないのでマスクを外させてもらっています。この愛顔でトークは夏場に開催する予定でありましたけれども、当時コロナの県内感染が急拡大していた時期と重なったこともありまして、延期をさせていただきまして大変恐縮でございます。

今回も本来だったら愛南町まで行きたかったんですけども、多少落ち着いてはいるんですが、現在コロナへの対応の予算編成作業等々が集中しておりまして、ちょっと県庁を離れることができずリモートで参加ということになりましたことをお詫びを申し上げたいと思います。

（西日本豪雨災害からの復興）

特に南予地域は3年前の西日本豪雨災害という大変大きな試練がございました。まだまだその復興は途上でありますので、県庁、県の施策の中でも最優先課題として位置付けて対応しているところでございます。そしてその最中に、この1年半の間は新たなハードルとしてコロナ対応という課題が突き付けられました。

（新型コロナウイルス感染症対応）

現在あらゆるところとタイアップをしながら、感染した時の備えの充実や、また、今後のワクチン接種の展開、そしてまた疲弊した経済の支え、下支え、まあこういった点に重きを置きながら対応しているところでございます。

（アフターコロナを見据えて）

ただ、一方でこの段階からコロナ後の社会を見据えた対応も迫られています。恐らく元に戻ることはないだろう。というのは1年半の対応が続く中で、人々の価値観も、そこから生じる生活パターンも、また働き方も、ありとあらゆるところで変化が生じています。そういう意味で通信環境というものを基軸とした対応をすれば、逆に地方にとっては厳しいけれどもチャンスでもあるという視点で前向きに捉えていく必要があるかと思えます。特に日本全国そうなんですけども、高齢化社会の到来と、それから少子化という2つの大きな課題。さらには東京一極集中という課題、こうしたことから人口減少という問題も生じてますんで、こうしたことにも対応していかなければなりません。そういう意味ではデジタル化を基本に置きながらも、コロナ後の社会というのをどう描いて、そしてまた地域の活性化に結び付けていくか、重要な課題となっています。

今日はいろいろなフィールドで活躍をされている皆さんがお集まりと聞いておりますんで、

また皆さんが感じられていること、あるいは提案、課題いろんな意見交換ができたらと思っていますので、限られた時間ではありますがどうぞよろしくお願いします。